

相生デイビス新聞

発行所
相生DS
44-4165

日差しに春の気配

遠く空が霞んでいる。昨日まではその鋭角な稜線を冬の空に描いていた山が、今日はどこかぼんやりとしている。街を流れる川もゆるんできたようだ。

その時、一匹の魚が不意にひるがえり、(きらっ)っと浅瀬の中でひかっただ。

名句
梅一輪
一輪ほどのあたたかさ
嵐雪



房総

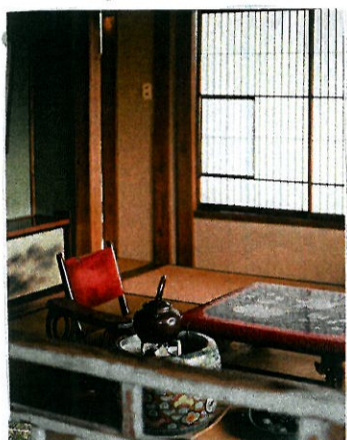


ご存知ですか

うるう年

今月は29日まで。一日もうけましたね。地球が太陽の周りを回る一年の誤差を、四年に一度調整する。その為の一日。

文豪が愛した宿



「国境の長いトンネルを抜けると雪国であった」

川端康成

湯沢温泉

かすみの間

雪国の宿 高半

ふるさと歳時記



2月3日 節分鎧年越

今月の予定

23 (火)	20 (土)	19 (金)	18 (木)	16 (火)	15 (月)	9 (火)	床屋さん
※おやつ作り	鶴貝カラケ会	音楽(小林様)	マリエル太田	音楽(設楽様)	習字	よさこいポパイ	1 (月)
							10 (水)
							18 (木)
							26 (金)

頭の体操

漢詩より

春宵一刻(？)

蘇軾の春夜の起句

春眠(？)

孟浩然の春暁の起句

思い出の名画



1954年

「君が欲しい、君は僕のものだ。」
「強引ね...」
「なんて強引なひとなの。」
「でも、不思議、わたし...」
「心のふたを開けようよ。」
「訳せばきっとこんな会話をしているのだらう。」
「にやん」
「それにしてもまこと騒がしい猫の恋だ。」
「うらやまし声もをしまし」
「のら猫の心のままに」
「妻こふるかな」
「定家」
「私にも悟りぬ誰にも悟りぬ静かな恋を。」
「君が欲しい、君は僕のものだ。」

天声珍語

「君が欲しい、君は僕のものだ。」

「強引ね...」

「なんて強引なひとなの。」

「でも、不思議、わたし...」

「心のふたを開けようよ。」

「訳せばきっとこんな会話をしているのだらう。」

「にやん」

「それにしてもまこと騒がしい猫の恋だ。」

「うらやまし声もをしまし」

「のら猫の心のままに」

「妻こふるかな」

「定家」

「私にも悟りぬ誰にも悟りぬ静かな恋を。」

「君が欲しい、君は僕のものだ。」